

「しるし」



▲配置図

敷地は、岩手県陸前高田市。

東日本大震災による津波被害後、被災した沿岸地域には、「津波浸水区間 前方〇〇m 後方××m」という標識が付けられた。

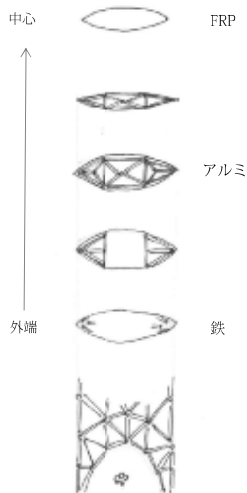
それは、どちらにいけば短い距離で安全な場所に避難できるかを示しているが、地震直後の気が動転した状況では、直感的に判断しにくい。そこで、浸水区域の境界線上に屋根をかける。それは空中に描かれた線であり、地上にひかれた線とちがって、区画整理や、経年劣化によって消されてしまうことはない。

この屋根は、避難時には、逃げる場所を示す「しるし」であり、ここに津波が来たことを未来に残す「しるし」でもある。



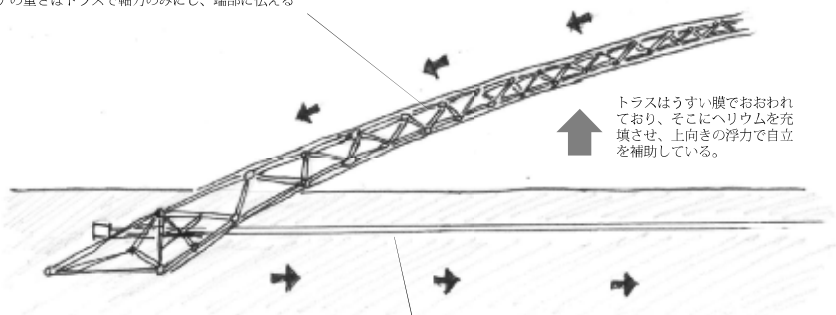
海風によって生き物のように揺れながら、華奢な屋根は空に浮かぶ。

▼部分断面



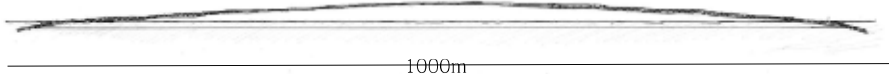
▼力の流れ

アーチの重さはトラスで軸力のみにし、端部に伝える



トラスはうすい膜でおおわれており、そこにヘリウムを充填させ、上向き浮力を自立を補助している。

▼断面図



構造は、張弦梁構造を採用しており、梁は端から真ん中にかけて、アーチを描きながら材と組み方を変え、トラスを組んでいく。

空中に描かれた屋根は、横幅10m、スパンは1000mで10000㎡の面積を持つ。それはどこから続いているのかも分からず、どこまでものびていく。屋根は、領域を分ける (separate)、目印になる (sign)、空間を守る (shelter) の3つの役割があるが、これはsignに特化した屋根である。